

# かわべ

発行 河辺村公民館  
 編集 編集委員会  
 館報編集委員 電話(河辺)5番  
 印刷所 尾上印刷所  
 八幡浜市天神通 電話0091番

## 年頭の挨拶

村長 稲田 三温

皆さん、明けましておめでとうございます。輝かしい昭和四十五年の新春を、おすこやかに迎えられました皆様、心からお喜び申し上げます。併せて平素村民各位の村政に對して、御教導と御協力に對し、厚く御礼申し上げます。どうか、本年も旧年に倍しまして、御指導御鞭撻賜りますよう、一重にお願い致します。

今年、国政に於きましても昨年の暮、皆様の選出され、た衆議院議員の新たなスタートにより、我々の期待に添った新しい政治が行なわれるものと思っております。

本村に於きましても、現在計画予算折衝中であり、四月からの山村振興事業も、四月からは四十五年度予算として、計上実施を行なうべく、新たな地域開発の種子に、全力を注ぎたいと思っております。その中には、交通及び通信施設、産業の生産基盤、整備、産業の経営近代化、文教施設、社会生活環境の施設、国土保全等の七部門に渡って、総事業費四億四千万円余りの投資を見当しております。

内部に渡り、申し上げたいのですが、大変長くなりますので、国県と補助等の査定が二月末頃までかかりますので、ここではおぼろげにいたし、新

めて完了の折、別の機会に申し述べたいと思っております。

現今我村のような山村の村政に對しては、私がここに申すまでもなく、困を上げてこの重大問題を検討致して、何より大切であると思っております。

しかし、日本は今日世界の工業国として生まれ変わろうとしておられるのであります。その中で、準農林業として生きぬかねばならない本村の立場を、今我々は他人事ではなく真剣に考えねばならない時期だと思っております。

形的には、他に類のないほどの悪条件な所であり、主産業の一つである農業は小さな段々畑と小さな水田を無理をして耕し、自給自足がやっとと言った家が、多く農業外収益にたよらなければならぬのが必然的で、一部の商業者等をのぞけば大部分は、出稼ぎと言った現状を見る時、どうしても抜本的な改造にせまられておるのであります。

村民各位にはどうかこれ等の点を御理解願って今後の本村産業開発には、絶大なる御協力を賜り、国県の援助を願ひ、地域山村に合った基礎を整えてまいりたいと思っております。

近隣の内子、大洲、長浜町等はそれぞれ条件に合った近代工業が「ゆづり」されようとして

いますが、本村としても一日も早く又少しでも大規模でそれが更に本村の離農家対策の推進に役立つべく、応援致さねばならないと思っております。

これが今、国で示している広域行政圏であり、又広域産業圏でもありと思っております。

文教問題に付きましては、結論から申しまして、昭和四十八年、山振事業が終了しますから、これによって施設整備及び合併準備を完了し、四十九年度より実質統合は合を行なうべく計画を進めておられます。

それまでの間、かなりの余裕も有り、皆様の建設的御意見を賜りたいと思っております。参考までに申し上げますと、四十九年度には村内中生合をせめて六学級編成になり、小学校も又北平小学校、大伍小学校はそれぞれ三学級二の複式、河辺小学校も四学級二の複式、経済問題に併せて将来の村を背負う人作りの教育問題等、重点的に皆様と共に一生懸命努力したいと思っております。

今年、国勢調査が御座います。その上農業センサスも行ないます。

ともあれ、昔から今まで、曲がりなりにも今日まで助け合ってきた河辺住民には、一人でも多くの土地に生存出来るようお互いの温情で手を結び、少しでも幸な暮らしができるよう協力したいと思っております。

申し上げれば切りがなくございませう。年初のことでもありますが、以上申し上げた林を呼びかけられたことが久万林業を進展させるきっかけになったのであります。井部翁が和歌山の出身であった関係上指導された造林方法は吉野林業をモデルにして、密植が行なわれ、通直完満な大径材生産に意を注がれたことから、現在のスギ林には相当数の吉野系統品種が導入されており、育林技術も吉野林業の方式を基礎として発達したものと見られます。

(2) 久万林業の見どころ



## 久万林業研修について

城戸善八郎 林業改良指導員

地域林業振興のため、昭和四十四年十月二日河辺村森林組合主催による研修旅行に、林業推進員とシイタケ評議員、森林組合役員の方々と同行させていただき研修させていただきました。皆様方には、それぞれとお感じになったこと存じますが、私も私なりに感じましたことは、今回の研修は大変意義の深いものであったと思っております。ここに厚く御礼を申し上げますと共に御参考までにその概要について報告致します。

(1) 久万林業の歴史について  
 久万地方で、人工造林が行なわれるようになったのは、明治の初め頃からのようであり、

現在久万林業では、先進林業の長所をとり入れ各方式の林業が推進されています。

(2) 久万林業の特徴  
 久万林業の特徴は、一口に言えば「育林」である。従来は、吉野林業の技術導入を行なった通直完満な大径材生産を行ってきたが、最近ではこのような施設方式は主として一部の大規模経営者に限定され、中小規模経営者においては行なわれていない。中小規模では主として、密植、枝打、林地肥培を組み合わせた、早期育成による無節の均質、中小丸太の大径材を生産するとしている。

(3) 除伐は、八、一〇年生で実施し、間伐は、一五年生頃から弱度の間伐を三、四回くらいに行なっているが、磨丸太として高価に取引されている間伐材もある。

(4) その他、林地や立体的な利用と、保護効果をねらった二段林業を行なっている林家が一部に見られ、特殊な事例として北山林業の流れをくんだ台スギ立立によって磨丸太を生産している。

(5) 苗木は、吉野系統の実生苗が多く使用されているが、造林樹種の八〇%までがスギであることから育種に多く関心が持たれており

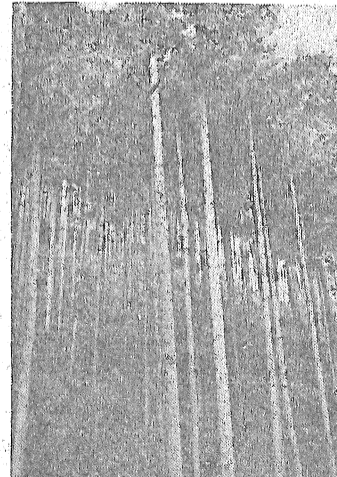
(6) 苗木は、吉野系統の実生苗が多く使用されているが、造林樹種の八〇%までがスギであることから育種に多く関心が持たれており

(7) 苗木は、吉野系統の実生苗が多く使用されているが、造林樹種の八〇%までがスギであることから育種に多く関心が持たれており

(8) 苗木は、吉野系統の実生苗が多く使用されているが、造林樹種の八〇%までがスギであることから育種に多く関心が持たれており

(9) 苗木は、吉野系統の実生苗が多く使用されているが、造林樹種の八〇%までがスギであることから育種に多く関心が持たれており

① 西川林業方式



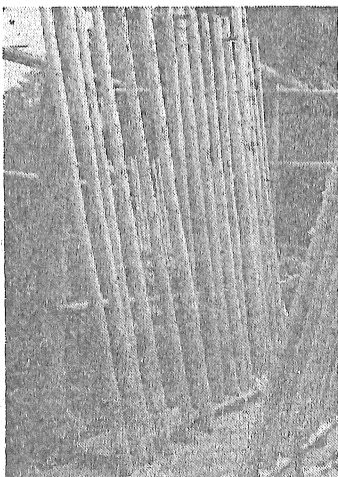
② 吉野林業方式



③ 田根林業方式



④ 北山林業方式



告教しましたが、本村とは立地条件、自然条件も異なる点もあつたため、本村に適用し、上記を精進いたいただきますよう切望致します。御参考として、本村に適した林業として研修報告と致します。

# 青年団活動を思う

河辺青年団 柿本恒男



アポロ十二号も人類を月に送り込んだ今日、人類の夢は限りなく広がり、そして限りなく発展している。人類がその歴史を背景に現在に到るまで諸事を究明し夢の拡大に尽力して来た事については、人間自負に、例えばワザキ話しかぐや姫の話等による月への憧れ、いわゆる月へ行つてみたいといわが夢に生きていた事が、すでに実現し、今では、その事、事象、昔話しにさえないなりました。そして私達は、この何と自由な現代を生を受け河辺青年団の一員として三十名足らずの団員をもって伝統的な活動を行なっているのです。過去の人類が残した業績、例えば化学的作用によって、食品を造り出され、そしてその事が当然だと思つてゐることを、科学の力で左右され、人類も豊富な生活を営んでいる。ヨーロッパ諸国をめぐり世界第二位と異例の経済成長を遂げている今日、この事実を耳にするにつけ、私も青年団員としていかに受けとめるべきか、どうするか。

過疎地帯の代表的な我村、その中で、次代を期待されている青年団として、大きな夢や理想も持っているのだけれども現実には、現社会の高度成長のひずみによってやむを得ず、何事も目先のことを追いついていくことになりがちです。村民は我青年団活動をどうみているのか、批評し、批判される声も少なくないでしょう。我青年団員でさえ、個々一人々々何かを計画行動に移した時に、どれほどの力があるだろうか、複雑な社会機構の中の一人の力といものは全て無にすぎない。だから、団結が必要になつてくる。地理努力したいと思つています。

現在よく報道されている、大学沖繩、安保など、重要な課題を持つ中、私達の生活に大きな関係をもつ、公共料金の値上げ、公害等、重要な問題が限りなく提起されている。我村も、第一次産業で示された人口の減少となり、工業地帯への発展ばかりで、食料品は外国から多くを輸入し、農作物を輸入するといつては世の中での消費者価格が農家も順次苦しくなつてくるのではなからうか、農民でさえも一人々々なくなつて、組織を作り共に助けあつて、生産者価格を維持できる様に、団結して、農業従事者として、団員の増加が保たれ、団の参加率を高めて一般への理解もあるものだと思つています。

## 農協の運営について

河辺村農業協同組合長

本村農業の将来を予言するところある。農林業経営で願うことは生産物の価格安定と云ふことである。生産過剰自然災害による不作等が出現するならばそれは神様に近い人である。近代農業と言ふ言葉は今日の流行語で多くの人が使用するけれど、果してその構想を現実の自信を持ち更にその地域に適用した青字真が引けると言ふ者は誰もないと私は思う。唯ゆる流通対策に胸が熱いのがこの様になるであろうと個人的な意見を述べた。現状を見る時に、現況を成り行きで見守つていくわけにはゆかないのである。幸な事に我村は今年より山村振興法の指定を受け産業開発の事業化しなければならぬと思つています。

本村農業開発は何と云つても林業の推進が第一に来るであろう。林野の内三〇〇余りの土地は適用地でありながら植林の出来ない所がある。この対策を考へ長期安定財産を作ることが大切。更に林野の少ない者或は准農業者には集団作業用の農地造成を図り、五戸、二十戸別の協業体を育成してゆくことが必要と思つています。本地域では作物を作る前に一進した農地改良を手がけ、手間のかからぬ機械化共同農業を行なうたいものである。

農林業経営で願うことは生産物の価格安定と云ふことである。生産過剰自然災害による不作等が出現するならばそれは神様に近い人である。近代農業と言ふ言葉は今日の流行語で多くの人が使用するけれど、果してその構想を現実の自信を持ち更にその地域に適用した青字真が引けると言ふ者は誰もないと私は思う。唯ゆる流通対策に胸が熱いのがこの様になるであろうと個人的な意見を述べた。現状を見る時に、現況を成り行きで見守つていくわけにはゆかないのである。幸な事に我村は今年より山村振興法の指定を受け産業開発の事業化しなければならぬと思つています。

## 農業後継者の活動推進について

村農業後継者協議会会長

栄野安宏

話した。村民のたゆまない努力と協働計画、生活設計と言つて大きな一本の柱として、簿記帳の仕方、生産費の出し方などいろいろと一般的なことから学ぶ学習して来た。始め集まりも悪かったのですが、余金を重なることと大変な苦闘を経て来た。河辺村の農業後継者は人数が少ないこと、栽培作物の数の多いこと、専門的な技術修得学習は困難です。今後共通点を見出し出して学習するつもりです。

公民館よりあたえられた課題ですが、私には少し荷が重すぎた感じがしないでもありません。少し紙面をお借りしたいと思つています。前館報に記載されていたように河辺村も例外もれず人口の減少による過疎の傾向にあります。過疎が引き起す問題をあげてみますと、第一、学校の統合、第二、公共事業活動をする上での労働力不足、(我々農民にとつても経営規模の拡大が叫ばれる今日、労働力不足が一番の問題点となる)第三、交通、医療機関の問題です。そのほか数々の問題があるかと思つています。この問題解決の方法は数多くあります。河辺村でも山村振興法、林業構造改善事業が計画されております。

話した。村民のたゆまない努力と協働計画、生活設計と言つて大きな一本の柱として、簿記帳の仕方、生産費の出し方などいろいろと一般的なことから学ぶ学習して来た。始め集まりも悪かったのですが、余金を重なることと大変な苦闘を経て来た。河辺村の農業後継者は人数が少ないこと、栽培作物の数の多いこと、専門的な技術修得学習は困難です。今後共通点を見出し出して学習するつもりです。



## 編集後記

河辺村の将来はどうかあるべきか、の主題において、村内各当局各種団体の方々に意見を寄せていただき「特集号」とする計画でしたが、原稿の集まりが悪く「特集号」に至らず、中途半端な館報をお届けするようになったことを残念に思つています。

年末、年始のご多忙の中で原稿を寄せて下さった方々に感謝しながら掲載させていただきました。厚くお礼を申し上げます。

なお今回間に合わなかった意見については、次号に掲載いたしますのでよろしくおねがいいたします。

本龍賢宗師の「一筆観音經」の書写が真無形文化財の指定を受け二十日に晴れの交付式が行なわれ二十六日には春日神社の「鎮禪神楽」神納天神社の「御幸の橋」が農教委の調査を受けるなど、このころの文化財は華々しい脚光を浴びております。次号ではそういった記事も載せる予定です。各種の意見、文芸など常時寄せていただくようお願いいたします。みなさんのお力により「館報」にゆきたいものです。

木においても造材の方法によつて数百円の相違のあることはもちろんであり、私がおどろいたことは同じ樹種においても安い材と高い材では、数倍の差が見られることです。又杉にしても良材であればひのきの並材よりも高い価格で販売されております。杉材につき、もう少し詳しく見てみますと(真材と言つて条件にして)安い材を見ても、柱材には大木が一番安く、柱材が板材になれば高く特に柱材については、普通材に比べて三倍ほどの価格であります。高い価格で販売すると言つことは、常に市場価格の動きをよく知ることも必要であると思つています。経営目標を定め少量であっても良い木が出せると言つことがたいじになって来ます。

この産業においても大変問題になっていますが、道路の整備、開通しよ。続いて販売組織と生産地形を成をはかることです。この問題も何んの栽培にても言えることと思つています。

林業の県下の動きを注意して見ると、県下各地の市場を見てみると、材の高い市場、松材の高い市場、ひのき材の高い市場、同じ樹種においても足場材の高い市場、柱材の高い市場、板材の高い市場などがあります。こういう問題と生産地形を合せた販売組織と言つてもあつたらぬと思つています。

販売組織とか生産地形形成につき農林の方にどのような方法で関心を持っていただくかと言つて、心を持っていただくかと言つて、林業構造改善事業についても、できるだけ多くの資料と話し合ふ場を数多く持つていただくよう、各指導機関の方々にお願い申し上げます。

農業の将来は間違つてもけつしつて明かるとは言えません。米価問題、蜜柑(グレープフルーツ)の自由化、乳製品も余つて来ていると聞いている。数えあげればきりがなく、この問題がいろいろありますが、若い